

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900540		
法人名	医療法人あけぼの会		
事業所名	グループホーム さくらのいえ(ガーデン)		
所在地	〒021-0821 岩手県一関市三関字日照77-2		
自己評価作成日	令和2年7月1日	評価結果市町村受理日	令和2年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が内科クリニックの為、日頃から医療相談しやすく迅速な対応ができており健康維持管理に努めている。また平成16年に市中心街地に開所して以来、従来通りの住み慣れた住宅地の環境で畑仕事や散歩等を通じて明るく地域の皆さまと接して来ました。隣のユニットとスロープを通じて気軽に行き来き、入居者同士で更に気分転換が図れるようになった。共用型デイサービスを開設しており、馴染みの生活が出来るように配慮している。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、同法人の医療機関の医師や看護師等との密な連携のもと健康管理が充実し、利用者の安心と家族の信頼を得ている。運営に当たっては、グループホームの理念を職員間で共有し、6項目の主要な取り組み方針のもと、利用者や家族の要望等を聴き取り、家庭的な環境の中で、利用者本意の介護サービスを提供している。また、運営推進会議の委員の助言や職員の提案を取り上げ、防災対策や新たな感染症対応、施設設備の更新などの業務の改善、更には地域との交流にも力を入れている。なお、本年度は、コロナ禍のため、交流は控えているが、地域包括支援センターとの連携のもと、認知症の家族からの相談や事業所の見学、案内など、地域活動の一翼を担っている。利用者の高齢化が顕著(平均年齢90歳代)であり、「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」を合い言葉に、尊厳に配慮した質の高いケアがなされている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、常に共通理解を図り、業務での実践に繋げております。	事業所の理念や6項目の主要取り組みを、職員会議を通じて職員間で共有し、職員と家族との話し合いを持ちながら「ゆったり、いっしょに、たのしく、ゆたかに」を合い言葉に日々のケアに当たっている。今年は新型コロナウイルス感染防止を最優先としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するために、地域交流は慎重に取り進めております。今後は状況を確認しながら、地域のボランティアによる、健康体操な度を再開したいと願っております。	例年は、ボランティアによる健康体操や大正琴、言語療法士による指導、幼稚園児とのクリスマス会の実施、地域の関係者参加のお祭りの開催など地域との交流を行っているが、本年度は、コロナ禍のため交流は控え、地域包括支援センターと協力して、認知症の家族からの相談や事業所の見学、案内など、地域活動の一翼を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の包括支援センターと情報交換をしながら、相談窓口に来所される、地域の方々に情報提供を試みております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員からの情報提供を参考にさせて頂き、地区の役員や民生委員等のご助言を仰ぎながら、ご利用者様への、サービス向上を図っております。	運営委員からの水害対応、避難場所の提案、介護タクシーの利用のほか、避難訓練への参加、新型コロナウイルスへの対応など、委員の助言や提言を業務に活かしている。例年、夏まつりや敬老会の行事にも参加いただき協力を得ている。今年はコロナ禍のため、一堂に会することを避け、資料を送り意見を伺っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、書類を直接手渡しで届けながら、疑問に思っていることや他のグループホームの取り組み状況を聞くことが出来ており、親切に答えて頂いております。電話でも、随時、ご指導を仰いでおります。	新型コロナウイルス対応の助言のほか、介護認定事務の指導、法改正の説明会や研修会への職員の派遣など、市と密接に連携を図っている。各種情報は通知文書で得ているほか、水害対応の際は、市の防災ラジオを活用している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	敷地外や駐車場出入り口と玄関にはチャイムを設置し、フェンス内はユニット間と庭には自由に出入り出来るよう配慮しております。ご利用者様の安全確保のために必要性を感じた事案は、ご家族と相談しながら、基準に則して対応しております。	職員会議やカンファレンスを通じて、身体拘束に関する情報や事例などを、職員間で話し合い、身体拘束のないサービスの提供を行っている。また、研修会参加職員を講師として、職場内の研修会を実施し、新たな知識の習得や対策を行っている。身体拘束の事例はなく、玄関施錠も夜間のみで、センサー等の使用もない。	身体拘束に関する会議の定期的な開催と記録や対策を職員間で共有し、より一層の身体拘束のないケアの徹底を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況や訴えに注意を払い、施設内でも身体状態に異変を見つけた時は、事故報告書を用いて情報の共有を試みております。高齢者虐待防止関連法について、研修会に出席し認識を高めながら、防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利譲渡に関しては常に個人を尊重し、自立支援の観点に立ち、ご利用者様の権利擁護を支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込みの段階から、ある程度の説明をさせて頂き、入居の際は特に関係書類を基にご納得頂けるようご説明しております。料金改定についても、郵送、あるいは電話連絡等を主にご連絡しております。必要に応じて、面接の機会も用意しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から寄せられるご意見やご要望は、施設の運営理念にかなう範囲であれば、「申し送りノート」に記載し、即座に職員各位に伝達いたします。運営方針にそぐわない内容の時は、法人幹部と協議し、慎重に判断いたします。	月1回発行の「さくらのいえだより」を月2回に増やし、利用者の生活状況を家族にお知らせしながら、意向の把握に努めている。また、日々の生活の中で利用者に寄り添い、利用者の要望等を聴き取り、お手伝いや、趣味、イベント、食事など、意向に沿った介護サービスを提供している。コロナ禍に関連し通所介護利用者との触れ合いに不安の声があり、事業所として慎重に対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は一年に最低1回は職員と面談し、職員各位の意見や要望を出しやすいよう配慮しております。施設の運営方針を、職員各位が理解できるように、環境作りに留意し、職員の意見を大事にしております。	施設長と職員との面談を通じ意見や要望、提案を聞き取り、おたよりの発行増加や、室内での運動会の実施、エアコンの更新など、業務の改善に繋げている。また、職員ごとの年間目標を定め、その達成状況を次年度に活かすこととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は将来性を考えて事業所の計画をしており職員の努力等が生かせるように職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年の認知症実践者研修やGH協会定例会・外部の研修は職員が交代で出席し全職員が研修できる機会を計画している。また、新人職員にはケアの実際のほか話し合いを多くもち精神面でフォローを大事にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協会との情報交換を試みております。書類作成や同業者の情報を頂いたりしながら、施設サービスの向上に反映しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談・入所に向けたデイサービスを通し利用者に会う機会を作り、本人の不安や要望を傾聴し、不安意識の軽減に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談・見学の段階からなるべく直接来所していただき、お話を傾聴しております。本人のこれまでの生活歴や、現在、特に困っていることなどを明確にさせて頂き、家族の思いを受け止めるよう心掛けております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐ入所につながらない場合でも、事業所として対応できることなどの助言をして、必要に応じケアマネジャーや包括支援センター、各サービス事業所と連携をとり対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴より、得意分野を見出し日常生活に反映しております。日頃の言葉遣いや、寄りそう姿勢に留意し、一緒に生活する者同士として、尊重し合っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の心身の状況に変化が発生した時は、即座に家族に連絡し、ご利用者様の状況を把握して頂けるよう努めております。ご面会の際には生活の様子を報告し、ご家族様とご利用者様が憩いのお時間を育めるという、配慮しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や外泊の制限は特に設けず、これまでの馴染みの方とのつながりを持ち続けられるよう支援してはりましたが、社会情勢(ウィルス感染症)等の状況に応じて、家族と相談して対応させて頂いております。	本年度は、コロナ禍により、知人や親戚の来所を制限をしているが、例年は、家族との買い物外出、馴染みの美容院の利用、夏祭りでの神楽の見学など、馴染みや地域の伝統芸能との触れ合いを大切にしている。近隣の事業所との交流や来所する理容美容師との新たな馴染みも生まれている。高齢化が顕著(平均年齢90代)で知人等の来所は少なくなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居室やリビング以外にも、気軽に話ができるミニ談話スペースを設けております。孤立しがちな利用者には、職員が寄り添い他の利用者とかかわりやすい雰囲気作りを支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設に移られたあとでも、ご家族や他施設からのご要望に応じて、退所後も相談できる場として関係を大切にしております。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前より、本人の生活歴やご希望を把握し、また日常の生活の中での発言をケースに記録して職員間で本人の思いを共有しております。家族とも相談し可能な限り沿えるよう支援しております。	一人ひとりの生活歴を大切に、日々の生活の中で、仕草や表情を見ながら、健康チェックの際など、利用者の要望などを聴き取り、お手伝いや、趣味、農作業のほか、外出、食事などの意向に沿ったサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の利用者情報を活用し、ご家族からの情報を傾聴しております。日頃のケアで関わりのある職員が、ご本人の思いに触れる機会が多いので、よくお話を聞くように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の話したこと、行動などをそのまま記録するよう心掛けております。職員が観察して、困っている様子など、小さな気づきも記録し、職員間で「申し送りノート」を活用しながら、生活支援を実施しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の観察記録、健康診断等の医療情報をもとに、モニタリングと職員カンファレンスで意見を出し合い、介護計画に反映しております。	基本6ヶ月毎に見直している。職員が観察や記録を基にモニタリングを行い、医師や看護師からの情報、家族の意向も加味し、ケアマネが介護計画原案を作成のうえ、毎月のカンファレンスで検討している。利用者ごとのアセスメントは計画作成担当者が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、通院記録・訪問看護記録等で情報を共有しております。ご本人の生活の様子、身体状況等を把握に努め、医療機関・その他関係機関と連携をとり、カンファレンスを経て介護計画の見直しに反映しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービス事業を実施しております。共用型デイを利用することで、早めに施設に慣れ、入所時のストレスの軽減が出来るように取り組んでおります。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容サービス事業者に在所して頂き、ご利用者様のリフレッシュに努めております。地域の有志の方による、健康体操等のボランティア活動で、楽しみのお時間を過ごして頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族の希望とし馴染みの医師に診療を受けられるよう支援しています。希望により法人の医師に変更する際にもスムーズに診療が受けられるよう情報の提供や受診の支援をしています。(法人医師による月一回往診あり)	協力医をかかりつけ医としている利用者は13名、従来のかかりつけ医は5名であり、従来のかかりつけ医の受診は家族同伴で行っている。皮膚科などの特別科も同様である。緊急時や家族の都合によっては、代わって職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人のクリニックと医療連携をしており、看護師が毎月2回来所し、ご利用者様の健康チェックを、定期的実施しております。体調変化の際は、随時、電話連絡を取り合い、医療的な対応について、指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の様子などの詳細は「暮らしのシート」を作成し、文書にて医療機関に情報提供を行っております。入院期間中は、医療相談室と連携し、情報収集に努めております。退院時は、病院のカンファレンスに出席し、治療経過と、退院後の生活支援の留意点を協議しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての指針の方針や、重症化した場合の施設の対応等を説明しております。重症化した場合は、施設で対応できることと、できないことなどを職員間でも話し合い、ご家族のご意向を踏まえて、相談しながら執り進めております。	看取りの指針は入居時に家族に説明し、同意を得ている。かつて数名の看取り実績があったが、現在は無い。母体の医療機関や訪問看護のスタッフを講師とした研修を重ね、終末期のケアは医師の指示のもと、ターミナルケアガイドラインに基づき対応している。なお、重度化した場合は、改めて家族の意向を把握し、医療機関や介護施設へ移送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応はマニュアル化しており、連絡体制を整備しております。万が一事故が発生した場合には、早期に対策委員会を開き、再発防止に取り組んでおります。		

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害が発生しやすい地域ということで、敷地を高くしております。避難訓練等も実施し、地域の方々の協力も得ております。スプリンクラー等の設備点検は定期的にも実施し、避難時の非常食も常備しております。	火災の通報、避難訓練を実施した。今後、夜間想定訓練を予定している。水防マニュアルを作成避難場所を設定した。なお、避難訓練には、運営推進会議委員や避難時に協力いただく介護タクシーの参加も得ている。災害時用備蓄とし、飲料水・食料・ストーブ・電源(車)がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令や指示的な呼び方や慣れ合いの呼び方をしないよう留意しております。入室の際にもお声掛けし、トイレ介助、自室でのオムツ交換時にもプライバシーに配慮して対応しております。	利用者一人一人の生活歴を大切にし、寄り添い丁寧なケアに務めている。「親しさの中にも礼節」を心掛け、呼称は「さん」付けである。利用者が主体的になる様、出来る事や特技を見出し行事の活性化を図っている。居室に入る時は、ノック声掛けをしプライバシーに留意し、また、失禁などは、他者に知れないよう配慮している。個人情報も事務室で管理し、漏洩、散逸しないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が、ご自身のご希望を話しやすい状況や場所等にも配慮しております。自己決定が難しい場合には、提案したり思いを汲み取るように努力しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、基本的な生活時間は概ね決まっておりますが、その時の本人のペースを大事にし無理強いしないようにしております。日中の生活は、個々の過ごしたいように過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望をお聞きしながら、理美容サービスの利用を支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご利用者様と職員が共にし、それぞれの感想を話しております。ご利用者様の介護度が高く、毎日調理に参加して頂くことは難しくなりましたが、行事の際に、一緒におやつを作り、季節の移ろいなどを感じて頂いております。	メニューは職員が作成し、時には雑誌やテレビで知った要望にも応えている。利用者のお手伝いは、食器拭き程度である。職員も利用者と一緒に和やかに同じ食事を採っている。高齢化が顕著で、体調などに応じ、食べやすく刻みやトロミ付けの加工をしている。季節などに応じたメニューに心がけ、土用の丑の日はウナギを楽しく味わった。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分摂取量を記録し把握しております。好き嫌いのあるご利用者様には、別メニューの食事をご用意したり、調理方法、配膳の仕方を工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがいや歯磨きを支援しております。義歯使用の方は、義歯洗浄剤を使用し、口腔ケアに努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、失禁の対応やおむつ交換の介助の必要を把握しております。職員間でケアの方法を統一し、自立支援に向けた支援を試みております。	排泄チェック表により、仕草などを見て、案内誘導している。自立は1名で布パンツを使用し、オムツ使用は2名である。他の利用はリハビリパンツに尿取りパットを併用している。どの利用者も「トイレで排泄」の気持ちが強く、職員は一人一人の実態に配慮し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の訴えのみならず、定時のトイレ誘導や、指示薬等の使用を実施しながら、便秘解消に努めております。野菜など繊維を含んだ食品を頂き、牛乳や水分の摂取を促しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておりますが、個々のペースを大事にしております。入浴拒否がある方には、タイミングや声かけを工夫して無理強いされた印象をもたれないよう配慮しております。	週3回(月、水、金)の午前、午後に入浴している。長期にわたり入浴を嫌う利用者はなく、少なくとも週1回は入浴している。菖蒲湯、ゆず湯を提供しており、リンゴ浴を計画している。入浴時は歌や世間話で楽しんでいる。一番風呂、複数での入浴希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々のペースに合わせて、着替えや口腔ケアの支援をしています。日中でも、自由に自室で休息をお取りして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を閲覧しながら、ご利用者様の服薬内容の理解に努めております。内服薬の変更時には、「申し送りノート」等に詳細を記載し、職員の情報共有に努めております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月実施される、施設の行事の準備の中で、それぞれの得意分野を活かせるよう職員がお声掛けをしております。隣のユニットに気軽に遊びに行き、交流を深めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある時はできるだけ本人の意向に沿えるよう、ご家族とご相談しながら支援しております。市内で開催されるお祭り等には、年行事を計画し、出かけております。	天気の良い日は、中庭を散歩したり、日向ぼっこをしている。草取り、プランターへの水遣り、庭でのお茶会、畑仕事などでも外に出ている。ドライブでは、花見、夏祭り、避難場所の確認を行っている。さらに、病院でのリハビリにも出かけている。家族と墓参りに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は、ご家族が実施しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い、施設の設置電話を活用し、家族等への電話を支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除や整頓を実施し、明るく居心地のよい空間であるよう心掛けております。なるべく自然の採光を取り入れ、室内を季節ごとに飾り付けをしております。リビングルームではテーブルの位置を移動したり生活感、季節感を取り入れております。	クリーム色の壁と床の木調とのツートンカラーで、ロビーには、食食用テーブル、ソファが配置され、壁には手作りの作品や季節の飾りがあり、窓から明るい光が入り、落ち着いた雰囲気の中、それぞれ、新聞、趣味、テレビなどで寛いでいる。温度や空調は、エアコン、オイルヒーター、加湿器、扇風機などで管理され、快適な生活環境となっている。玄関には花の装飾もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭先や陽のあたる中庭に椅子を置き、日光浴をしております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらのいえ(ガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時には、馴染みの物や家具・家族の写真等 を持ってきていただくようお願いしております。各 自、ご自身の居室をアレンジして、ご利用されて おります。	設備は、ベッド、クローゼット、洗面台、テレビ端 子があり、利用者の希望の場所にベッドが配置さ れている。衣装ケース、椅子、位牌、家族写真、 カレンダー、テレビ、ラジオ、ぬいぐるみなど、思 い出や馴染みのものが持ち込まれ、居心地の良 い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、ご利用様が安全に移動できるよ う動線を確認し、自由に歩行して頂いておりま す。トイレや浴室に入口にはわかりやすいよう に手作りの表示をして、夜間にも迷わないよう工夫 しております。		